

一志郡一志町高野

高寺・寺家遺跡発掘調査概要

1988. 3

三重県教育委員会

例　　言

1. 本書は、三重県教育委員会が三重県土木部から執行委任を受けて実施した県道一志・出家線道路改良事業に伴う一志郡一志町高野に所在する高寺・寺家遺跡の発掘調査結果をまとめたものである。
2. 調査は、三重県教育委員会が主体となり、同文化課主事倉田直純・森川常厚が担当し、昭和62年11月17日から12月1日まで約275 m²について行った。
3. 発掘調査後の整理及び報告書作成は、遺物写真を三重県教育委員会文化課主事田中久生、他を同森川が担当した。
4. 本書の遺構表示略号は、下記によった。
P;柱穴状遺構、SK;土塙、SD;溝
5. 方位はすべて磁北を用いた。なお当地域の磁針方位は西偏約6°20'（昭和61年）である。

1. 位置と環境

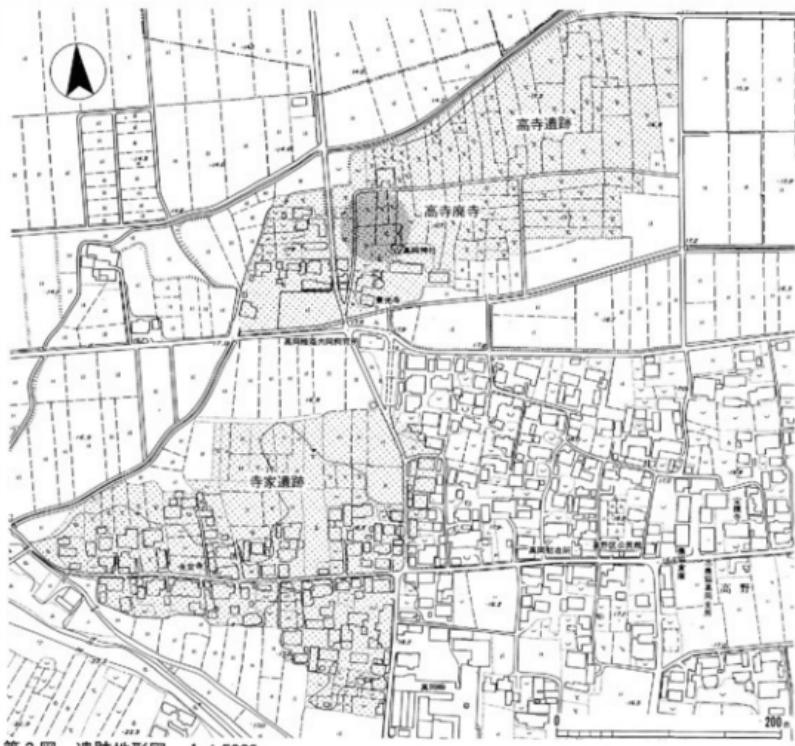


第1図 遺跡位置図 1:5000 (国土地理院 大仰・津西部 1:25000から)

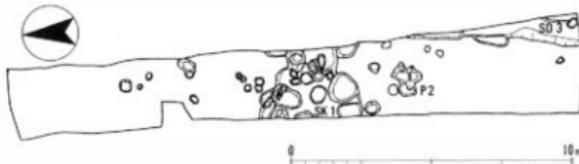
- 1.高寺遺跡 2.高寺廃寺 3.寺家遺跡 4.上野山古墳群 5.田尻上野遺跡 6.上野狐山古墳群
- 7.下名倉遺跡 8.西山古墳群 9.西出山古墳群 10.八太城跡 11.下川原遺原 12.斑光寺跡
- 13.中野山古窯跡 14.ヒジリ谷古墳群 15.小山城跡 16.小山古墳群 17.鳥居本遺跡
- 18.片野遺跡 19.平生遺跡 20,23巣志頓宮推定地 21.天花寺古窯跡 22.天花寺廃寺

高見山系三峰山に水源を持ち、山間部を北流する雲出川は、中流域で大きく流れを東へ変えて伊勢湾に注いでいる。高寺(1)・寺家遺跡(3)は、この雲出川が大きく蛇行して伊勢平野に流れ出るあたりの右岸、低位段丘北端部に位置する。北側は、数m下がって沖積平野となり、南西には上野山と呼ばれる丘陵が広がっている。

① 高寺遺跡では、ナイフ型石器が採集されており、他に先土器～縄文時代の遺跡として、



(4)



第4図 高寺遺跡遺構平面図 1:200

田尻上野遺跡(5)、下名倉遺跡(7)等が知られている。弥生時代にはいいると、近年発掘調査された鳥居本遺跡(17)、^③片野遺跡(18)から堅穴住居跡や方形周溝墓が検出され、同時代の大集落

があったことが明確になった。古墳時代には、上野山をはじめとする丘陵地域に、後期を中心とする多くの群集墳が築かれている。また、このころより当地域は、交通の要所として畿内と強いつながりを持つようになったようで、^④次の飛鳥・奈良時代には、斎王群行路が当地域を横断する。そのためか、鳥居本遺跡、平生遺跡(19)からは、畿内的要素の強い土器が出土している。また、この時代の寺院跡も多く知られており、高寺庵寺(2)、斑光寺跡(12)、天花寺廃寺(22)などがある。また、これらに瓦を供給したと思われる古窯跡は、^⑤鶴尾が出土した釜生田辻垣内窯をはじめ、中野山古窯跡(13)、^⑥天花寺古窯跡(21)等が知られている。^⑦高寺庵寺は、古く淨泉寺という七堂伽藍があったと伝えられ、高岡神社、東光寺周辺の畠地には、多くの古瓦が散布しているが、寺域は定まっていない。中世になると、八太城跡(10)、小山城跡(15)等の北畠氏関係の城跡や、寺家遺跡、下川原遺跡(11)等の遺物散布地が知られているが、発掘調査の例もなく詳細は不明である。

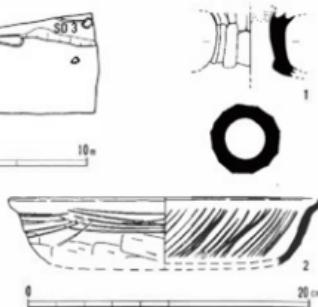
2. 高寺遺跡

遺構 SD3以外は飛鳥・奈良時代のものである。SK1は、調査区中央で検出し、多数の重複があるが、その切り合いは不明である。P2は検出面よりの深さ約70cmのしっかりしたもので柱穴と考えられるが、調査区が小さいこともあって掘立柱建物としてとらえることができない。SD3は、時期を決定できる遺物が出土していないが、土層観察の結果、他より相当新しいものと考えられる。

遺物 1.2ともに赤茶色で胎土精良の土師器である。1は小片だが、内面は放射状暗文とラセン暗文を施し、外面は横方向の簡単なヘラケズリとヘラミガキで調整している。2は、高杯脚部で、ヘラケズリにより13面に面取りされる。

3. 寺家遺跡

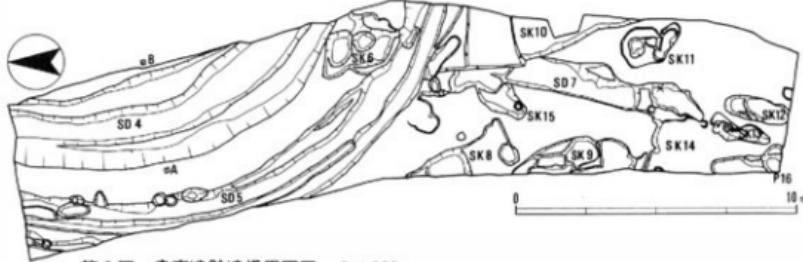
遺構 平安時代末期と鎌倉時代の2時期のものが検出された。平安時代末期のものは、



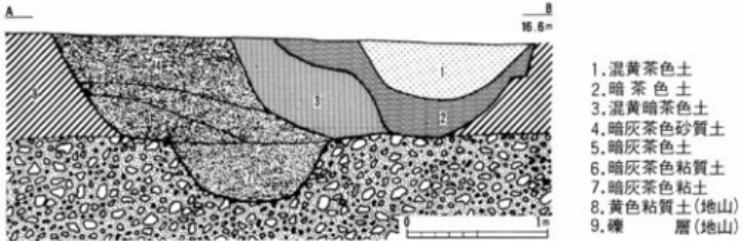
第5図 高寺遺跡、SK1出土物実測図1:4

重複する土塙群SK6、浅い土塙SK15、溝SD4.7がある。鎌倉時代の遺構は、SD5、土塙SK8,10,11,12,14がある。その他時期不明のもととして、SK9,13,P16がある。SD7は、深さ10cmほどの浅い溝である。×印の地点より完形の山皿(13)と土師器杯(12)がうつぶせ状態で重なって出土した。(写真3)溝底が×印北側で若干浅くなるため、SD7南端は、溝と切り離して土塙と考えるべきかもしれない。その場合、南隣のSK13には、挙大の石8個の集石があり、これとともに中世墓群と考えられなくもない。しかしSK13を含めて一条の南北溝ととらえることもでき、決め手を欠く。SD4,5は、同心円状にまわるものと考えられ、その直径はSD4で18m、SD5は26mと推定できる。SD4は幅3m、深さ1.1mを測る大溝で、4条の溝が重複している。新しくなるにつれて小規模になり、最後は幅1.2m、深さ0.4mほどになる。しかし、大きな時期差はなく、いづれも平安時代末期におさまるものと考える。SD5は、SD4と同じように4条の溝が重複しているものと考えられるが、その切り合いは確認できなかった。幅1.2m、深さ0.8mで、SD4よりやや小規模である。両溝の中心線間の距離は約4mである。また、SD5埋土より石鍋(23)が出土している。SK10は、調査区東端の土塙であるためその形状は不明である。南北溝であるかもしれない。SK12は壁の一部が、オーバハンジしており、SK8,9,11,14、は不定形な土塙で多数の重複がある。いづれもその性格は不明である。

遺物 遺物は、中世の土器類を中心であり、土師器の杯、皿、鍋、山茶楓、瓦、石鍋などが出土した。1,2はSK15出土で、1は土師器の杯、2は、しっかりした高台を持つ山茶

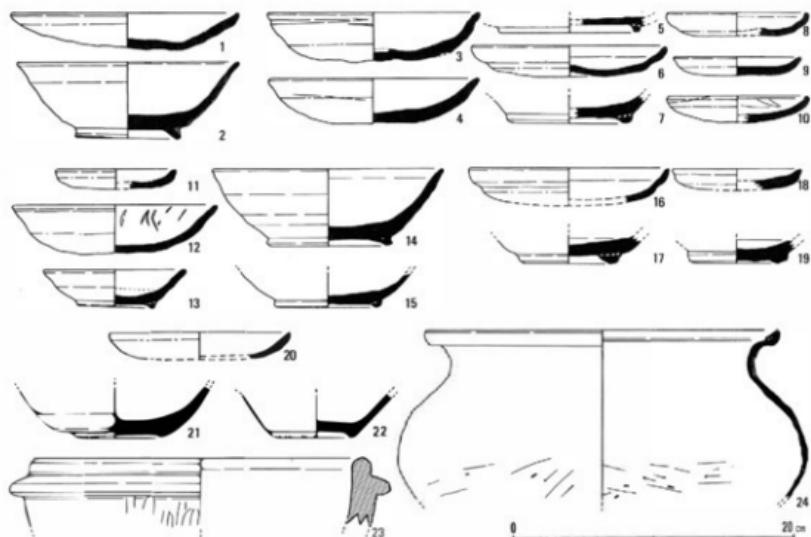


第6図 寺家遺跡遺構平面図 1:200



第7図 寺家遺跡SD4断面図 1:40

椀で、高台には粗穢痕が残る。3~10はSK 6出土で、3,4は土師器の杯であるが、3の口縁部外面には沈線状の強いヨコナデが一周する。5は土師器の台付椀底部、6, 8~10は、いづれも土師器の皿で、9, 10の内面にはヘラ状工具のあたりが残る。6, 8は口縁部外面に段を呈するほど強くヨコナデする特徴的な土器である。7は山茶椀で、やはり高台底部に粗穢痕を残す。11~15はSD 7出土で、12と13は前述のようにセットで出土している。12の内面にはヘラ状工具のあたりが残り、外面全面と口縁部内面の一部には煤の付着があり、燈明皿として使用されたものであろう。13は内面に自然釉がかかり、重ね焼きの跡が見られる。11は土師器の小皿、14, 15は山茶椀で高台には粗穢痕が残る。16~19はSD 4からの出土で、16, 18は土師器の皿、17は山茶椀、19は青磁椀である。16は前述の6, 8と同様に口縁部を強くヨコナデする特徴的なものである。17の高台は雑にはり付けられており、その外面には砂粒の痕跡が残る。他のものとは時期差があり混入したものであろう。19は見込みに段を有し、高台は削り出されている。釉色は淡緑色を呈する。20~24はSD 5出土である。20は土師器の小皿、21, 22は山茶椀で、粗穢痕の残る扁平な高台をはり付けている。23は滑石製の石鍋で、外面を縱方向にヘラ研磨しており、鏃以下には、煤の付着がある。24は土師器の鍋で、体部下半内外面をヘラケズリする。25は平瓦、26は軒平瓦である。25は、凹面の一部をナデにより調整するが、他は糸切り痕や布目が残る。凸面はすべてナデにより調整されている。暗緑灰色を呈し、胎土、焼成とも良好な硬質の瓦である。26は小片であり、しかも摩滅がはげしくその詳細は不明である。淡茶色を呈する軟質のも



第8図 寺家遺跡出土遺物実測図 1:4

1・2はSK 15、3~10はSK 6、11~15はSD 7
16~19はSD 4、20~24はSD 5

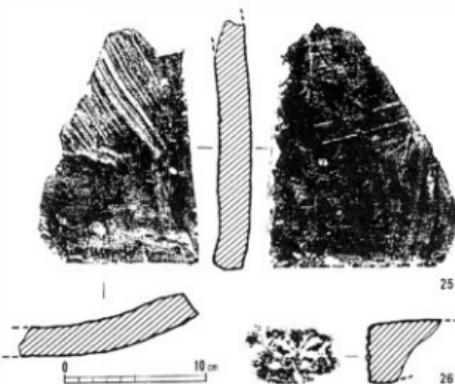
ので、25とは異質である。25は包含層、26はSK6出土である。

4. 結語

小規模な調査であるため、両遺跡ともその性格を明らかにすることはできなかった。また高寺廃寺に直接結びつく遺構も検出できなかつたが、高寺遺跡SK1出土の畿内的要素の強い土師器や、寺家遺跡出土の瓦は、少量であるとはいえ、近くに寺院が存在する可能性を示している。また、寺家遺跡の同心円状の溝SD4、5は、SD4が平安時代末期、SD5が鎌倉時代と時期差があり、SD4を拡張した形でSD5が掘られている。しかし、その性格については、類例もなく不明である。

〔註〕

- ① 吉村利男 『一志町史・上巻第一章』 一志町役場、昭和56年
- ② 榊生進一・吉村利男 『鳥居本遺跡発掘調査報告』 一志町教育委員会、1975
- ③ 河瀬信幸 『片野遺跡発掘調査報告』 三重県教育委員会、1985
- ④ 吉村篤・寺嶋和夫 『一志町史・上巻第二章』 一志町役場 昭和56年
- ⑤ 註②参照
- ⑥ 服部貞蔵・吉村利男ほか 『平生遺跡発掘調査報告』 平生遺跡調査団、1976
- ⑦ 辻富美雄 『釜生田辻垣内瓦窯跡群発掘調査概報』 姫野町教育委員会、1985
- ⑧ 註①参照



第9図 寺家遺跡出土瓦実測図 1:4





写真3 寺家遺跡SD7遺物出土状況

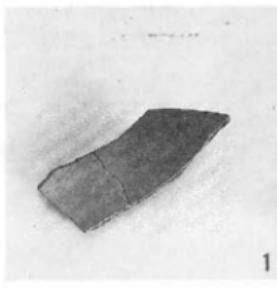


写真4 高寺遺跡出土遺物

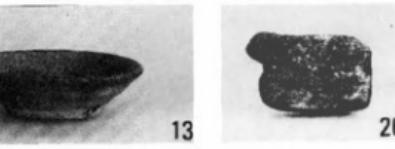
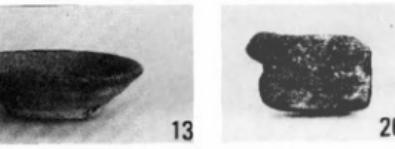


写真5 寺家遺跡出土遺物 1:3